

2022年12月

『クリスマスを探偵と』

～アマチュア時代のリメイク作品～

伊坂 幸太郎

今回のオススメ本、『クリスマスを探偵と』は、伊坂幸太郎が大学時代に初めて書いた短編小説をリメイクした作品です。

あとがきに、「技術的にかなり拙いものだったが、アイデアやストーリー展開については気に入っていた」と、ありました。全面的に書き直したとはいえ、ある意味、伊坂の処女作と言うべき作品かもしれません。

出版にあたって、クリスマスのお話なので読者に何かプレゼントしたいと考え、マヌエーレ・フィオールが挿絵をつけることになったようです。

本文を読む前に、まず、挿絵だけをパラパラと眺めてみました。それだけで、ヨーロッパのステキな町並みや人々の様子を感じることができました。本の大きさも、一般的な単行本とは違い、絵本サイズになっています。

【ストーリー】

クリスマスイブなのに、家族も恋人もいない探偵のカールは、ベンチである男と出会い、サンタクロースに関わる話をする事になります。

ドイツのローテンブルクで起きた小さな奇跡が、読み手の心にも響き年齢とともに失われていく、サンタクロースへの思いが蘇る、そんな優しい1冊です。

ちなみに、『クリスマスを探偵と』の宣伝キャッチコピーは、「かつての子どもたちへ、これからの大人たちへ」と、ありました。



作者の伊坂幸太郎 氏